

**CASBEE京都-新築(2015年版)**  
 福島建設株式会社 (仮称)京都南物流センター新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 騒音				3.0	0.15	-	-			3.0
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-			
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御				3.0	0.35	-	-			3.0
1 室温				3.0	0.50	-	-			
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	-			
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25	3.0	-			
2.2 湿度制御				3.0	0.38	-	-			
2.3 空調方式				3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-			
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用				3.0	0.25	-	-			3.0
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.30	-	-			
2 方位別開口				3.0	0.60	3.0	-			
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	-	3.0	-			
3.2 グレア対策				3.0	0.40	3.0	-			
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-			
3.3 照度				3.0	1.00	3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-			
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策				3.0	0.25	-	-			3.0
1 化学汚染物質				3.0	0.50	-	-			
2 アスベスト対策				3.0	1.00	3.0	-			
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	-	-			2.9
1 広さ・収納性				2.3	0.40	-	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	0.33	3.0	-			
1.2 心理性・快適性				3.6	0.33	-	-			
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)	事務所OH=2700、西面に開口部	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース			休憩室(46.0㎡)	4.0	0.33	-	-			
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.30	-	-			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務				-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震				3.0	0.30	-	-			3.0
1 耐震性				3.0	0.50	-	-			
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.2	0.30	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			汚水雑排水・雑排水、硬質塩化ビニル管	3.0	0.10	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり					3.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI 非住宅 0.95	3.0	0.05	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.87 住宅(専有部) ー	4.0	0.60	-	-	4.0
				集合住宅以外の評価(3a.3b)	4.0	1.00	-	-	
				集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.24	-	-	3.0
				集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	
				4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
				4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
				集合住宅の評価	-	-	-	-	
				4.1 モニタリング	3.0	-	-	-	
				4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護					2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
				1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
		●自然	A(全国版準用)	2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
				1 消火剤	-	-	-	-	
				2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
				3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				CO2計算 参照	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
				1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
				2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
				3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
				4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
				1 騒音	3.0	0.33	-	-	
				2 振動	3.0	0.33	-	-	
				3 悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
				1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
				2 砂塵の抑制	-	-	-	-	
				3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
				1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
		●とも	B(推奨内容)	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる